

【ボクシング】大久保賢児コーチ復帰で、早稲田ボクシング復活なるか

2018.5.8 20:05 | スポーツ | 格闘・相撲

昨年末、プロボクシング元世界三階級制覇の井岡一翔が引退した。入れ替わるように、かつて北京五輪出場をかけて井岡とアマチュアボクシング全日本選手権決勝戦で拳を交えた、大久保賢児が母校の早稲田大学ボクシング部に戻ってきた。平成19年に大分県で開催された全日本決勝戦、井岡（東農大1年＝当時＝）との戦いは、試合開始早々から前年度王者の大久保（早大3年＝当時＝）が猛攻でポイントを連取、後半は高校の恩師で早大ボクシング部OB、元全日本王者の関政明先生直伝のテクニックで井岡の猛迫をかわし、わずかに1ポイント差で勝利。大久保が国内を制し、五輪アジア予選、世界選手権出場に駒を進めた。しかし、北京五輪アジア最終予選は準決勝敗退、世界選手権ベスト16敗退。両大会共に、あと1勝で北京五輪に届かず。五輪への夢が断たれた大久保は、大学卒業とともにグローブを吊るした。なお、ロンドン五輪ミドル級金メダリストで現プロボクシングWBA世界ミドル級王者の村田諒太（東洋大＝当時＝）や、同五輪バンタム級銅メダリストで現プロボクシング東洋太平洋フェザー級王者の清水聡（駒大＝当時＝）もこの年の全日本選手権を制している。



部員を指導する大久保コーチ

その大久保が今年4月上旬に開催された文京区ボクシング大会の会場、東大ボクシング道場にいた。まだ初々しい、デビュー戦を迎える早大ボクシング部員のセカンドとして、コーナーで指示を出しているのだ。

昭和39年の東京五輪で三階級に代表選手を送った古豪早大ボクシング部は、現在、関東3部リーグに低迷。平成29年に指導陣を一新した。監督には平成8年卒業、元高校総体二連覇の中村勇誠氏が就任。大久保は新指導陣の熱烈なラブコールにより、同年からコーチに就任することになった。仕事とコーチの両立は難しく、現役部員を指導できるのは週に1日程度。場合によっては練習に行けない時期もあった。そんな中途半端な状況を嫌った大久保は、職を辞して平成30年4月から早大ボクシング部のために週6日フルタイムで指導に当たるようになったのだ。収入面の心配をすると、「結婚の予定はありませんし、自分が好きなことができるので。最低限稼げれば生活できます」と母校復活への思いは強い。現役部員と一緒にロードワークを走るなど、ともに汗をかいている。その姿は、かつて、高知小津高校で大久保を教えた恩師の関政明先生にそっくりだ。土田大輔主将は「大久保コーチが毎日来るようになって、部の雰囲気ガラッと変わった」と大久保コーチの指導による部の変化を感じている。

第71回関東大学ボクシングリーグ戦1部リーグと2部リーグが5月12日から都内の後樂園ホールで開催される。今シーズン、東京六大学のうち東大と早大を除いた慶大、明大、法大、立大が2部リーグに所属している。一部コアなファンからは「早大が後樂園ホールにいたほうが、リーグ戦が盛り上がる」といった声もある。

1ポイント、1勝の重みを知る大久保コーチの復帰で、早稲田ボクシング復活なるか。

【プロフィール】大久保賢児（おおくぼけんじ） 1986年5月27年生まれ。高知県出身。高知小津高校卒。高校時代は選抜、総体、国体を制し高校三冠。早大進学後は2006、07年度全日本選手権優勝。06年度国体優勝。2007年世界選手権ベスト16。戦績93戦88勝（30KO・RSC）5敗。

早稲田大学ボクシング部（<http://www.waseda-boxing.com/>） 1929年創部。1951年に1部リーグ優勝。プロボクシング元東洋太平洋王者の三谷大和、「拳聖」ピストン堀口の孫で元プロ堀口昌彰などOB。

関東大学ボクシングリーグ戦official website

<http://www.kantouniv-boxing.jp/>

©2018 The Sankei Shimbun All rights reserved.